



2019/8/1 No.81

発行者：社会福祉法人 ミッドナイトミッションのぞみ会

本 部：〒293-0023 千葉県富津市川名1436番地

あの男を呼んでください



副理事長 木下 勝世

ここに御紹介するお話は聖書（マルコによる福音書一〇章四六節以下）に記されている出来事です。ユ

ダヤの首都エルサレムの近くにエリコという町がありました。富裕層が住む町だったそうです。この町に盲人で物乞をして暮らしている男がいました。物乞いの盲人の存在はこの町には不釣り合いだったことでしょう。ある日この町をイエス様が通った時のこと、それを聞きつけたこの盲人は、突然「私を憐れんでください」と大声で叫び出しました。町の人々は彼を黙らせようと叱りつけました。ところがイエス様は歩みを止め、町の人に「あの男を呼んでください」と命じられたのです。人々は盲人を連れてきました。そしてイエス様は盲人の目を見えるようにされました。

この出来事で不思議なのは、イエス様が町の人々に「あの男を呼んでください」と命じられたことです。イエス様ご自身が盲人の座っているところに行けば済むし、そのほうがずっと手取り早いのに、です。さらに驚くのは、命じられた町の人々が盲人のところに行くと掛けた言葉です。彼らは「安心しなさい。立ちなさい。主がお呼びだ」と言ったそうです。存在を疎んじ、無視し、叫び続ける彼を黙らせようと叱りつけていた人々です。それがイエス様の言葉を託され、うれしい知らせを携えて盲人のところに行く人々に変えられているのです。

「共生社会」という言葉を日常的に聞くようになりまし。共生社会とは「違い」が許容され、尊重される社会です。誰もが「違い」を抱えています。共生社会は誰もが「違っているのいい」と言われ、誰もがお互いに「違っているのいい」と

言い合える社会です。けれども現実の社会は「違い」に対してとても非寛容です。違っているものを疎んじ、無視し、侮蔑し、排除しようとしています。二千年前のエリコの町の人々も同じでした。富裕な町に不釣り合いな盲人の物乞いをして、疎ましく思っていたに違いありません。だからイエス様に助けを求めて必死に叫ぶ彼を叱りつけ、黙らせようとしたのです。

「違い」を受け入れるにはどうしたら良いのでしょうか。障害のある子が幼稚園の入園を断られるという事実を例にして考えます。この子は園の保育に合わないと言って断られるのです。「○○がちゃんとできるなら入れてあげよう」と言われるのです。そちらが変わってくれるなら受け入れるということです。けれどもそれは無理なこと。この子を受け入れるためには、○○がちゃんとできないこの子も一緒に過ごせる保育をする幼稚園に変わるしかないのです。変わるべきは排除されている彼ではなく、排除している我々なのです。

エリコの町の人々は変わりました。疎んじていた盲人の物乞いの傍に行き、声をかけ、イエス様のところへ連れていく人々に変えられました。きつとしゃがんで手を取り、一緒に歩いてあげたこと。イエス様の「あの男を呼んでください」という言葉が町の人々を変えたのです。共生社会を実現するには、私たち自身が変わらなくてはならないのです。行って言葉を掛ける者に変えられねばならないのです。

イエス様は今も私たちに「あの男を呼んでください」と言っておられます。彼のもとに行き、その手を取り、神様のメッセージを伝える者に変わってほしいと願っておられるのです。福祉の働きとは「あの男を呼んでください」というイエス様の言葉に応えることなのだと考えます。望みの門の始まりであるミッドナイト・ミッションは、まさに「あの女性たちを呼んでください」というイエス様の言葉に応えて、夜の町に出かけて行く働きだったのです。

東京望みの門 自立援助ホーム マナの家

おいしい恵み



調理員 山下喜美子

マナの家の食事のお手伝いをはじめ、もう十五年になります。寮生が若くなるほどこちらは年寄りになっていきます。寮生の食の傾向もどんどん変わり、年寄りとしては苦辛しております。

私の所属している教会の庭には、色々な食べ物が生ります。牧師の趣味もあります。

一番早く生るのは、二月には夏みかん（冬なのに夏みかん）一本の木ですが毎年五〇〇個近く生ります。多くの教会員がそろって収穫しマーレードにします。昔ながらの夏みかんですので酸っぱいですが、これがマーレードにするととてもおいしいので皆さんに喜ばれています。春になると蔦の蔓、これは天麩羅にしたり蔦みそにしたり。五月



の終わりから桑の実がなり始め収穫に追われます。毎日毎日黒く熟した実から採り、今はその収穫した実でジャムを作っています。近隣の皆様にも好評で、毎年待っていてくださいます。枇杷の実がついばみ、残りを人間が頂きます。夏に入ると茗荷が取れ、その他レモンや柚子も植えられています。こちらはまだ収穫には至っていません。

このように、教会で生ったものを日々の食卓に「神様のおいしい恵み」として近隣の方々と共に喜んでいただいています。

マナの家の食卓にもこれらのジャムがのほることもあります。

マナの家の食卓が、単にエネルギーの補給の場ではなく、すこしでもおいしい恵みの場になればと願っています。力足りぬところは神様のおいしい恵みを祈るばかりです。

婦人保護施設 望みの門学園

学園紹介



心理相談員 福原 麻衣

のぞみ会に就職し六年目を迎え、この春望みの門学園への配属となりました。今までは相談業務に五年間携わり、地域の方々から話を伺ったり関係機関と共に支援を行ってまいりました。地域から生活の場へと対象がかわ

り、私自身生活施設での勤務も初めてで、不安でいっぱいでした。しかし日々利用者や職員の方々に沢山助けてもらい、楽しく過ごすことができています。

そんな望みの門学園には素敵な方々が沢山います。例えば、人や周りをよく見ている鋭い観察眼の持ち主や、毎日一〇〇段もの階段を上り仕事へ向かう頑張り屋、いつも明るく元気でハイテンションなムードメーカー、感性豊かで絵を描くのがとても上手、動物とご飯をこよなく愛する機織り名人、字を書くのがとっても丁寧な真面目さん、本が大好きなかわい癒し系、毎日の献立や天気予報を欠かさずチェックする情報通、いつも穏やかに皆を見守っている、コツコツとやるのが上手な勉強家、マイペースだけどやるときはやるマン、いつも素直で元気な働き者、はっきりしてるけど相手を傷つけない優しさが魅力、植物が好きで争いことが嫌いな聞き上手、機転がよく利く力持ち、等いろいろな方がいます。



様々な理由から入所に至り、年代や立場も生き方も皆バラバラで誰一人同じ境遇の人はいません。学園での生活の中には時に些細なことで利用者同士衝突し、苛立ちを抑えきれない事もあるでしょう。その度に怒り悩みながらも前に進む利用者達。相手のために「大丈夫？」と心配してくれたり「ごめんね」と素直になったり皆優しい一面も持っています。一人一人が沢山の良いところを持っていて、其々の個性を生かし支え合って共同生活を送っています。

心理士として私にできることは少ないかもしれませんが、利用者の良いところを沢山見つけ、それを伝えていけたらと思います。これからも利用者達にとってより良い生活の助けになるよう努めていきたいと思っています。

養護老人ホーム 望みの門 楽生園

日々勉強



栄養士 平野佳奈美

昨年四月に新卒としてのぞみ会に入職し、早一年半が経ちました。給食サービスマス所属、楽生園配属の栄養士です。まだまだわからないことも多く、色々な方にご教授頂きながら働く日々です。皆さまは給食サービスマスをご存知でしょうか？給食サービスマス室は現在楽生

園、紫苑荘、デイサービス、ハイムのご利用者職員に食事を提供しています。朝食、夕食が百十食。昼食が百五十食。一日で約三百七十食提供しています。その全てが同じ食事という訳ではありません。主食にはご飯、お粥、ミキサーのお粥があり、副食には普通の形、大きく刻んだもの、荒く刻んだもの、ミキサーがあります。その他にも軟らかい食事や、代替え食など様々な形態の食事を含めての約三百七十食です。土台となる献立の作成や食材の発注を栄養士が行い、その後の様々な形態別に食材を仕込み、調理し、盛り付けなどを行なっているのが調理員のみなさんです。

昨年の六月頃より私は献立作成、食材の発注をしています。献立もただただ作れば良いという訳ではありません。ご利用者のことや、厨房の流れを考へて作らなければいけません。ご利用者のことはご利用者ご本人や介護・支援員のみなさんに聞けばわかりますが、厨房内のごことは調理員のみなさんに聞かなければわからないことが多く、色々なことを調理員のみなさん



に聞いてしまいます。

幸いにも優しい方達ばかりで、聞くとも様々なことを教えて頂けます。その教えて頂いたことを参考にすることで、どうにかこうにか献立作成から食事の提供にこぎつけています。聞かずにいたら危ないことになっていたかもしれないことも何度かあり、また聞いてその献立にしたことでご利用者が「美味しい！」と喜んでくださることも何度もありました。「お年寄りはお稲荷さん好きだよ」そう教えて頂いたあと、祝日に昼食でお稲荷さんを提供した時のご利用者の喜んだ顔は忘れられません。

今は助けて頂くばかりで支えることはできていませんが、調理員のみなさんと協力しながら、ご利用者みなさんが美味しい、嬉しいと思える食事の提供に努めていきたいと思っています。

特別養護老人ホーム 望みの門 紫苑荘

みんなで楽しめる環境づくり

介護員 酒井 亮太

望みの門 紫苑荘に入職し約一年半が経過しました。振り返ると多くの利用者様と接し先輩方に支えられ業務や書類を覚える中あっという間でした。最近では業務に慣れる一方で

作業的な動きになつてしまい利用者様一人ひとりに関わる時間が当初より減っているように感じます。社会的な人手不足が問題視される中、こ紫苑荘でも職員減少により忙しい日々が続いています。私が紫苑荘で



好きな業務は利用者様と一緒に体操やレクリエーションを行っているときです。最近では多くのメディアで健康寿命を伸ばそう・認知症を予防しようといった内容の軽い運動や発声などを目にします。見よう見まねで毎日の体操やレクリエーションに取り入れると皆さん興味を持ちいつもより楽しそうに参加して頂きます。「楽しかった」「続けてたら動きやすくなったよ」と声をかけてくださることも増え次回は何をやるのかとわくわくします。外に目を向けると敷地内には多様な樹木・草花があり季節により様々な彩りを魅せてくれます。お隣の楽生園では中庭で野菜を育てており利用者様とよく窓から観て育成を楽しんでいます。本当は一緒に外に出て育てている方とお話しをしたり一緒に育てて交流を持っ

たりとやれることは多くありますが行えていない現状です。

今後は職員で協力して時間をつくり外に出る機会を増やしたいと思っています。

忙しい日が続き疲れが出ることもあります。が「大変な中ありがたいね」「いつも助かるよ」と笑顔を向けていただくと頑張ろうという気持ちが湧いてきます。人手不足・忙しさを理由に淡々と業務をするのではなく少しでも新しいことを増やし利用者様と私たち職員が一緒に楽しめる環境をつくれるよう努めていきたいと思っています。

特別養護老人ホーム 望みの門富士見の里

介護支援専門員として

介護支援専門員兼介護員 石野 美衣

長かった梅雨もようやく明け猛暑の季節となりました。富士見の里も今年で七年目の夏を迎えております。毎年この時期になると「暑い、暑い」と言っておりますが、夏と言えば海水浴や高校野球、花火大会と様々な事が思い浮かびますが、八月に湊の海岸で行う花火は、富士見の里の屋上は穴場となっております。人ごみも無く、ゆっくり見る事ができます。介護支援専門員として業務して八か月が経過しました。主な仕事は、施設入所者様のケ

アプラン作成及びケアプラン通りに提供できているかの確認を行っています。ケアマネは五年ごとに更新研修を受ける事で職務を継続することが出来ます。現在更新研修受講中であり、研修に参加するたびにケアマネとしての責務の重大さを実感するのと同時に、事例検討を通じて、支援の方向性やケアマネとしての気づき、他職種連携により問題解決していくことの重要性を再確認しています。今一つ一つの仕事を覚えていくことで精一杯なところもありますが、色々な立場の人と連携するコミュニケーション能力や利用者の状況に応じて適切に判断するアセスメント力が足りていない事を実感しております。丁寧に経験を重ね、日々少しでも能力を高められるように努力をしていきたいと思っています。

最後に、富士見の里では冬季以外は誕生会や外出行事等を行っておりますが、七月三日の七夕の会ではフラダンスのボランティアの方に来所を



して頂きました。利用者様が楽しみ、夏を感じて頂けたと思っております。その時の雰囲気や少しでも感じていただければと写真を掲載いたしますので、どうぞご覧ください。

老人デイサービス事業 望みの門デイサービスセンター

新鮮な『望みの門デイサービスセンター』

介護員 森田しのぶ

私は四月入職の新人です。以前は事務職でしたので、初任者研修において初めて介護について学びました。研修では講師が実体験を語り、点字や手話、音楽療法等学びました。

コミュニケーションツールとして地域の食べ物や風習、方言が有効であると教わりました。私は富津生まれの富津育ちなので、方言は多少分かるつもりでしたが難しいこともあります。

方言といえばデイで嬉しいことがありました。ある時、利用者様が私の事を『ちいせえや』とおっしゃったのです。私は背が高く、小さいと言われる事が無かったので方言と分かっていたてもなんだか素直に嬉しくなっていました。

コミュニケーションを大切に入浴介助や体操、お食事、レクリエーションを利用者様が楽しみながら過ごして頂けるようにと思っています。

います。

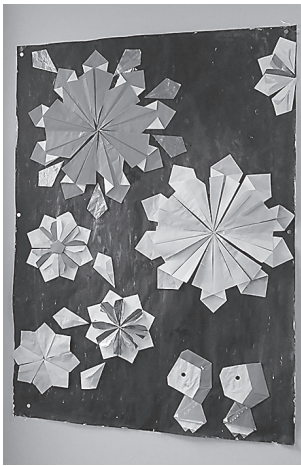
得意と言えるものは何もありませんが、利用者様のお話はよく聞こうと思っています。利用者様に気が付かない事を教えて頂くことも多く、とても勉強になります。

先日、お出かけランチに行った際には、利用者様と好きなものを注文し、少しだけ非日常のワクワク感を感じて楽しいイベントとなったかと思っています。

また、送迎時にはご自宅から住み慣れた地域の四季を感じて頂けている事でしよう。

デイの支援は毎日忙しく時間が早く過ぎます。利用者様の新たな問題やニーズに注意しながら、デイサービススタッフの一員として頑張りたいと思っています。

利用者様は一人おひとり日常生活や出来る事、出来ない事、興味ある事等が違います。残存能力を活かした自立支援を心がけ、先輩方の指導の下、利用者様と共にステキな時間を過ごして行けたらいいなと思っています。



就労継続支援事業 望みの門新生舎

おりひめ倶楽部の 取り組みのご紹介



職業支援員 鈴木 良子

おりひめ倶楽部は令和元年七月現在で男性五名、女性十一名の計十六名で構成されております。年齢は二十歳代から六十歳代までと幅広く、主な対象者は重いてんかんや体幹機能障害・情緒的に不安定になりやすいなどの障害特性が顕著な利用者さんです。一日を通して日常生活の中から利用者さんの能力や適性に合わせた作業種の提供により本人の意欲、能力向上に努めているところです。

さて、おりひめ倶楽部と言えば足拭きマット・六角マットが主な製品として上げられます。一〇〇%ハンドメイド製品に完成度の高い製品作りを目指して糸の色分け作業から力を入れていきます。もちろん機織りしている利用者さんもきれいな作品をお客様に提供しようという気持ちが養われ時にはちょっと間違えてやり直しをしながら取り組んでいます。

また、昨年度から家族会のお母さん方のボランティアのご協力をいただいて数々の新製品が誕生しています。便利用品からぬいぐるみまで作品展の売り場はとてにぎやかになりました。季節にあった製品・顧客のニーズや流行を取り入れた製品作り力が入りま



す。さらに、販路につきましてもJ A君津味楽園さだもと店を中心に出店等の販売をいたしております。一昨年十一月からは君津信用組合富津支店様のご理解のもと作品の紹介コーナーを店内に設けていただき地域の方々に製品ご紹介の場としてスタートしております。そんな中ご来店のお客様より購入希望があったとのことで今年の四月からは店内でも販売が可能となりました。現在もクラフト（紙バンドを利用したバスケットやバック等）を導入し誕生カードをはじめクラフトを利用した作品にも家族会のお母さんのご指導のもと新展開をしているところです。機会があれば新生舎にお越し頂いて製品を手にとって見ていただければ幸いです。

利用者一同
お待ちしております。



千葉県中核地域生活支援センター 君津ふくしネット 君津ふくしネットに配属になって

相談支援員 堀口麻理子

今年の四月より君津ふくしネットに配属となりました。生活困窮担当として、君津市委託事業生活自立支援センターきみつ内で、生活困窮者自立支援事業に基づき、何らかの生活に困窮している方への支援を行っています。これまでは永く高齢者福祉に従事していたので、日々勉強、試行錯誤の状況です。

相談に来られる方は様々で、性別、年齢、事情もそれぞれ異なります。仕事に就くことが難しい、収入や預貯金が僅かである、生活する場所も失いそうだ、食べるにも困っている等、切実な相談が多いです。

ある研修会で、「福祉の相談は誰しも来なくてきているのではない。生活の上で困ることがなければ、できれば通らなくて済むのであれば相談することもないのだから…」とおっしゃっていたのが印象に残っています。私たち相談支援員は日々相談を受け付けて、相談事に対してサポートしています。相談に来られる方々のそのような背景を十分に理解し応対する事が大切だと感じています。また、その方の可能性を信じる事、寄り添い続ける事も大事なことだと感じています。

配属して間もなく、就労がとても難しいと思われていた方が就労に結び付くことができました。これまで本人をサポートし続けてきた方々との信頼関係と、

本人が就職したい、生活を変えていきたいという気持ちが高じた事、更に就職先の社長や上司の方の協力などが相まって話が進んでいったと感じています。

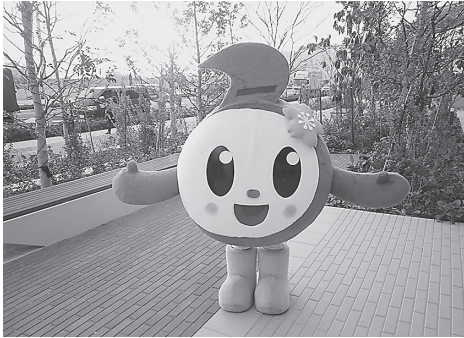
自分の道を決めたり、自分の希望する生活に向けて進んでいくことに、私たちは身近な応援者になること、更に周りの応援者も増やしていけるように働きかけ、誰もが暮らしやすい地域になれるよう取り組んでいきたいと思っています。容易なことではないですが、やりがいを感じています。



NEW 富津市富津地区地域包括支援センター「福祉の窓口」

管理者 花澤 光洋

今年度の四月より、富津市では健康福祉部の中に福祉の窓口課ができ、福祉の窓口係が福祉に係る総合的相談、障害者手帳（身体・知的・精神）、障がい者支援、虐待・DV等への対応などを行うようになりました。地域包括支援センターとしても、またひとつ連携の図れるところが増えてきたことを心強く思っています。地域包括支援センターの業務の一つである総合相談支援業務について近年、様々な複合的な事例が増加していることから、富津市にワンストップでの窓口ができたことで対応の効率性が図れたように思っています。特に虐待に関する、以前ではまず健康福祉部介護福祉課高齢者支援係とのやりとりでしたが、今年度から初めに福祉の窓口係を通して虐



待に関して相談を行い、虐待に関するコアメンバー会議（虐待かどうかの判断、緊急性の判断をする会議）に地域包括支援センターとして参加し、連携する事となっています。その後、地域包括支援センターの権利擁護業務に関わる時には高齢者支援係に繋がり、連携していく運びとなっています。こうした富津市役所内での役割分担が明確になったことで、ケースに対しての専門性が高くなり、また迅速に対応が行えるようになると考えています。ケースの対応に関するスピードが求められ、早急な判断と対応が求められる今において、大変必要なものであると思っています。今後とも富津市の三地区（天羽・大佐和・富津）にある地域包括支援センターでしっかりと手を繋ぎ、連携して富津市への一助となればと思っています。

児童養護施設 望みの門かずさの里 この仕事に就いて

児童指導員 勝畑 千鶴



私は、平成三十年十一月一日当法人に入職、かずさの里の所属となり、早七ヶ月が過ぎました。子どもたちが生活している施設であり、学校や施設の行事が盛んで全てが初めての経験でした。その為戸惑うことも多く、思

うように動けない自分な情けなさを感じることもありました。しかし上司や先輩方の助言のおかげで何とかここまですることができています。

私が仕事に就いて特に印象に残ったことは、今年の六月八日湊小小学校の運動会です。前日からの悪天候もあり、延期になるのではと心配していました。子どもたちの気持ちに通じたのか運動会開始頃から晴れ間が見え始め、午後には日焼けするほどの晴天になりました。私は小学一年生女兒との親子競技に参加しました。歩幅の違いを気かけながらも気持ちだけが先走ってはいけないと思いつつ、一緒に走りゴールまでがとても長く感じました。結果は見事一等賞！女兒の満面の笑顔は今でも忘れられません。

また団体種目の応援合戦や学年でのダンスでは、集団行動を苦手とする子どもたちは上手くできるだろうかとハラハラしたことを覚



えています。実際は私の予想に反し、明るくみんなと踊ることができていました。カメラで一人ひとりの子どもに焦点を当てレンズ越しに見る表情は様々で、必死に周りと同じように踊ろうとしている姿、堂々と踊っている姿、真剣に踊っている姿、目が合うと笑顔で手を振っている姿などの表情を見ることができました。様々な障害を抱えていても、周りと比較せず、ゆっくりながらも、練習を重ねることで色々なことが習得出来るようになるかと改めて感じました。

かずさの里の一職員として今思うことは、子どもたちが成長していく過程で、どれだけ上手に深く関わり、見守り、安心感を提供できるか、何かを求め必要としているときに、どれだけ手助け、応援できるか改めて重い仕事と感じています。日々の生活の中で、喜怒哀楽を共に分かち合い、私自身子どもたちと共に成長できるように努力したいと思っています。

乳児院 望みの門方舟乳児園 方舟乳児園と私の十周年

保育士 岩田 唯

私が方舟乳児園に入職してから十年がたちました。そして、方舟乳児園も二〇〇九年四月一日に設立されてから十年がたち十一年目

を迎えました。この十年間でたくさんの子を方舟に迎え入れ、そして送り出してきました。が、初めて方舟に来たお子さんの事は今でもよく覚えて



ています。

ともに生活をしていく中で、首が座ったり、寝返りが出来るようになったりと日々成長し、成長と共にいろいろな表情も見せてくれるようになり、そんな成長を見られることが嬉しく仕事に行く事が楽しみになりました。しかし新卒で入職し、何の知識も経験もない私にとって抱っこするにもベテラン保育士さんのようにはいかず、なかなか泣きやんでくれなかったり、どう関わっていいのかわからず苦労したことも覚えています。それから十年長いようであっという間に月日が経ちました。

現在、社会的養護を必要とするお子さんはたくさんいます。方舟にも入所依頼はたくさん来ますが、すでに入所している子供たちに必要な環境づくりを最優先する中で、新しい子供たちに応じた職員数の確保が難しいとい

うこともあり、入所を断らなければいけないこともあります。私見にはなりますが、そのような中で施設生活をするという事が、必ずしも「子供の最善の利益の追求」になるとは思いません。でも命を守るといった意味では必要な場所です。

そんな方舟で生活している子供たちにとって、少しでも家庭的に、そして色々な経験を提供できるように、何よりも一人一人に最善の利益を……と。十年たった今でも、どうすることが一番よいのか分からない事だらけです。初心を忘れずに、子供たちに「安全・安心」「快適な生活と養育」を提供出来るよう、これからも日々努めていきたいと思っています。



心理相談員 片岡 美香

「あれ、喉に違和感がある」昨年冬、沖縄へ旅行に行く前日、喉に強い違和感がありました。なんだか喉がキュツとなる気がする、と思いつつも、朝になれば治ると期待して就寝。しかし、翌朝も治らず、水を飲んでも痛くなってしまいました。それでも、ずっと前から決めていた旅行なので、空港にある病院に寄ってから行こうと決め、出発。病院では、

幸いにもインフルエンザではないと分かったため、予定通り沖繩へ向かいました。

その後、熱がグングンあがり、結局沖繩でも病院に行きました。なんと、扁桃炎になっていたとのことで、点滴をしてもらい、やっと回復することができました。

さて、今回、私が罹患した扁桃炎は原因について、免疫力が低下していたことや何らかの細菌に感染したなど明確な理由が考えられます。一方で体の器官には何も問題がないにもかかわらず、喉が痛かったり、吐き気を催したり、といった体調不良が起こることがあります。心理学では、こうした症状を身体化と呼び、日常のストレスを無意識に我慢することで体に不調が起こると考えられています。

ストレスの要因には、気温や天候といった環境的なものや、悩みや葛藤といった心理的なもので様々です。そして、特に、心理的なストレスが身体化を引き起こしやすいと言われています。対処法としては、心理的なストレスを分類し、自分の悩みや葛藤がどんなものかを知ることが挙げられます。



ピーターパンの家は、子育て応援団として、保護者の方の子育てに関する相談やお子さんの自身の成長に伴って生じる課題に関する相談をお聴きしています。子育て中や成長の中で、体や心からの「SOS」が聴こえた時には、是非ご相談ください。一緒にストレスの分類をし、対処をしましょう。

児童心理治療施設 望みの門木下記念学園 三年前の出来事



看護員 齊藤喜代美



木下記念学園内にある君津特別支援学校の上総湊分校の玄関を退勤しようとして外へ出た瞬間、首に小

さいタオルケットをマントのようにして巻き、スーパーマンのような格好をして、瞳をキラキラさせて一人の男の子が「さいとうせんせい。」と駆け寄って来ました。当時、小学部に入ったばかりの男の子でした。学校では毎日のように暴言を言ったり反抗的な態度をとったりと、扱い方に悩むことの多い児童の一人でした。その男の子が屈託のない笑顔と人なつっこい口調で駆け寄って来た三年前

の出来事を今でも鮮明に覚えています。

当時、分教室の教員であった私はその男の子のそんな子どもらしい様子を学校内では見たことがありませんでした。暴言、暴力といった危害に及んでしまう子ども達を目の前にして暗中模索の日々でした。一人一人の子とも達の子どもらしさや無邪気さを感じる余裕を持つことができない状況でした。また、子ども達も児童相談所から木下記念学園へ入所したばかりの頃で、不安と緊張でいっぱいであつたと思います。しかし、今思うと、この時をきっかけに私の中で子ども達への思いが変化していったように感じます。

その男の子も今では、素直で優しい中学生となつています。自分のとつた行動が他者に与える影響を少しずつですが考えられるようになり、集団生活ができるようになりました。木下記念学園で育まれた子ども達は、個人差があり少しずつではありますが確実に成長を遂げています。

安全で安心できる時間と空間の中で穏やかな気持ちを取り戻してほしいと思つています。私は、今年の四月から教員を辞め、木下記念学園の看護職として子ども達と関わる日々をスタートさせました。

生活の場というより近い位置から子ども達の成長を見守ることができていることを嬉しく思っています。

望みの門バザー収支報告

2019/ 6 / 1

単位：円

収 入		支 出	
中古衣料	55,300	材 料 費	402,651
雑 貨	640,548	雑 費	371,936
ベーカリー	185,990	通 信 費	1,476
屋 台	372,294	本部繰入金	812,924
家 具	25,700		
その他収入	31,155		
寄 付 金	278,000		
収 入 計	1,588,987	支 出 計	1,588,987

上記のとおり報告いたします。

望みの門バザー実行委員会

委員長 田尻 隆

六月一日(土) 今年も盛大に望みの門バザーを開催することができました。尊い献金・献品を頂戴しました皆さま、また当日ご来場いただきましてお客様、ボランティアの皆さま、お祈りのうちにバザーをお支え下さったすべての皆さまに心より感謝いたします。

至らない点も多々あるかと存じますが、今後とも望みの門をご支援ただけますと幸いです。



バザー報告

社会福祉法人ミッドナイトミッションのぞみ会 平成30年度 決 算 報 告

貸借対照表

(単位：千円)

事業活動計算書

(単位：千円)

資金収支計算書 (単位：千円)

科 目	金 額
資 産 の 部	
流動資産	804,157
固定資産	3,022,756
(基本財産)	2,083,413
(その他の固定資産)	939,343
資産の部合計	3,826,913
負 債 の 部	
流動負債	157,582
固定負債	788,167
負債の部合計	945,749
純 資 産 の 部	
基本金	723,021
国庫補助金等特別積立金	724,625
その他の積立金	619,751
次期繰越活動増減差額	813,765
(うち当期活動増減差額)	19,292
純資産の部合計	2,881,164
負債及び純資産の部合計	3,826,913

科 目	金 額
サービス活動収益	1,687,106
サービス活動費用	1,657,757
サービス活動増減差額	29,349
サービス活動外収益	15,272
サービス活動外費用	23,935
サービス活動外増減差額	△ 8,663
経 常 増 減 差 額	20,686
特別増減	
特別収益	4,791
特別費用	6,185
特別増減差額	△ 1,394
当期活動増減差額	19,292
前期繰越活動増減差額	823,572
当期末繰越活動増減差額	842,865
基本金取崩額	0
その他の積立金取崩額	10,900
その他の積立金積立額	40,000
次期繰越活動増減差額	813,765

科 目	金 額
事業活動収入	1,702,378
事業活動支出	1,581,375
事業活動資金収支差額	121,003
施設整備等収入	0
施設整備等支出	65,481
福祉事業活動収支差額	△ 65,481
その他の活動収入	16,582
その他の活動支出	45,204
その他の活動資金収支差額	△ 28,622
当期資金収支差額	26,900
前期末支払資金残高	737,773
当期末支払資金残高	764,673

※ホームページ

<http://www.nozominomon.or.jp/>
